



柏原海岸で執り行われた潮がけの様子。関係者や神馬が海水を浴びて身を清める。水を嫌がり海へ入ろうとしない流星号には、保存会メンバーが海水をすくって浴びさせた。



練習開始から2週間たった蓮くんの騎乗の様子。この日はデビュー5年目の「はやぶさ号」での練習。恵まれた体格を活かして疾風のごとく駆け抜ける。

約一ヶ月半の訓練、そして潮がけ



2年前に射手を務めた只啓吾くんの勇壮な姿に憧れ続けた今年の射手蓮くん。

その時から「自分も射手を務めたい」と心に決めていました。保存会は、新たな会員を獲得するために射手経験者を家族にもたない少年をと、ぎりぎりまで調整していたといいます。

射手決定の朗報を聞くまでは、落ち着かない日々が続いた蓮くんのもとへ8月11日、保存会メンバーが正式依頼のため増田さん宅を訪問しました。

迎えた蓮くんはこの時、「流鏝馬の大変さは兄の姿を見てわかっています。それでもこの大役を務められることがうれしくて仕方ありません」と話していました。そして9月1日から約1カ月半の練習が始まりました。練習の手伝いには地域住民やクラスメイトなどが率先して参加し、蓮くんを支え続け、本番2日前に行われる潮がけまで滞りなく進んでいきました。